JHFレポート
190号 JHF
最新情報・バックナンバーは
ウェブサイトでご覧ください。
http://jhf.hangpara.or.jp
Japan Hang&Paragliding Federation　社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟 発行

小さくなったJHFと今後の組織

社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟　会長　内田孝也

このJHFレポートというわたしたちの機関紙が、一年に一度しか会員の元に届かない状態は、たいへん心苦しいものがあります。日本ハング・パラグライディング連盟に入っているんだという帰属意識は、フライトエリアやスクール・クラブに所属しているという意識に比べると、とても希薄なものになっているのだろうと思います。

社団法人であり、全国統括機関である連盟と聞くと、皆さんはどのような組織を思い浮かべるのでしょうか。何となく大所帯であり、会社のように法律・会計・事業の専門部署があって、経営者がボトムアップの案件を決裁している、そんな姿でしょうか。全国のフライヤーの皆さんの自由なフライトを保障しバックアップするという意義からいえば、わたしもそのような重厚な存在を期待したいところです。しかし実際は、一握りの人たちが事務局の活動を支え、業界の有意の人々のボランティアベースの委員会によって各事業が企画・推進されているのです。さまざまな問題が降りかかってきますが、各分野の専門家がいて対処するのではなく、このような人たちの機転と幅広いフライヤーの援助によって乗り越えています。

小さくとも公益法人であるからには、誰もがいつでも自由なフライトを楽しめる環境を提供していく使命を持っています。でもそれはお金をかけて特別な仕事を作るのではなく、日本ハング・パラグライディング連盟に所属するすべての人が、公益活動に参加することを指すと思います。たとえば、いつも安全に楽しく飛んで、その伸び伸びした姿を世間の方々に見ていただく。そして「誰でも飛べるのか」と尋ねられたら、「あなたも飛べますよ。わたしは自分たちの連盟に所属していて、皆でルールを守って飛行を楽しんでいます。お仲間になりませんか」と答える。それも立派な公益活動ではないでしょうか。

さて、愛好者の減少は相変わらずで、財務危機は乗り越えたものの、全体規模の縮小による組織運営の困難さは、年を追って大きくなっています。2008年度は、ずいぶん絞ったと思われていた雑巾をさらに絞るようにして、基本的な管理体制改革や事業効率の見直しによって、大きな経費圧縮を実現しました（それでも機関紙発送は１年に一度がやっとということで、今年度の総会にはフライヤー会費の増額の議案も出ますが）。今後も体質改善による小さな体制は維持しながら、事故防止の啓蒙や、各委員会の事業の活性化に重点が置かれるべきでしょう。

経費削減のため極限まで実務部門を縮小した結果、日本全体の活動が細ってしまっては、本末転倒となります。政治の世界では、小さな政府とは地方自治の充実を伴ってこそ実現されると考えられているように、わたしたちの世界も、都道府県連盟の元気な活動があってこそです。スカイスポーツの統括団体の一員として、利害を超えた地域活性化を担う存在、都道府県連盟にもさらに活躍していただきたいと思います。

また、ボランティア登録制度をはじめて約２年、さまざまな方々のご登録・ご協力を得ていますが、さらに多くの方にご参加いただきたく、あらためてお願い申し上げます。

第21回パラグライディング日本選手権にし阿波から。風船を飛ばし来年の再会を約束した。

アジア選手権の成功を祈願した山上でテープカット。左から、アジア選手権サポートの会の松浦明会長、航空協会の小林忍航空スポーツ室長、東みよし町の川原義朗町長、高井美穂衆議院議員、JHFの内田。（田中輝美撮影）

パラグライディングアジア選手権
2010年4月29日～5月9日
徳島県にし阿波地域で開催!

2008年度の報告と2009年度の予定

2008年度の事業

JHFの事業は、毎年６月開催の総会で正会員に承認された計画にそって実施しています。2008年度の主な事業を報告します。

HG＝ハンググライディング
PG＝パラグライディング
MPG＝モーターパラグライディング

□教員・助教員

数年来の宿題になっていた教員・助教員更新講習会を、正会員（都道府県連盟）の協力の下、各地で開くことができました。2008年度は20ケ所での講習会に221名が参加。2009年度以降も、全国の教員・助教員が時代に即した教習技術・知識を共有できるよう、この講習会を行っていきます。

また、全国の教員検定員による検定を突破して、24名（HG4名、PG17名、MPG３名）の新教員が誕生、それぞれの地域で教員活動を始めています。

以前から要望があった教員・助教員のリスト公開を復活させました。JHFウェブサイトのトップページ、「JHFのご案内」の「教員助教員リスト」です。

□競技

例年どおり日本選手権を開催し、各競技リーグの運営を行い、国体（大分県）のデモンストレーション行事に協力しました。また、HGクラス1女子・HGクラス５、PGクロスカントリーの世界選手権に日本チームを送り出しました。

計画に入っていなかった事業ですが、アジアオリンピック評議会主催の第１回アジアビーチゲームズでPGが正式競技になり、JHFが推薦した選手６名・監督１名を日本オリンピック委員会が派遣しました。予算化していなかったため、選手のドーピング検査関係の費用のみを予備費から支出。アジアビーチゲームズは今後も２年に一度開催される予定で、第２回は2010年にオマーンで開かれます。PGやHGが正式競技種目に選択されれば、参加を続けたい考えです。

□安全

事故ゼロは毎年の目標ですが、残念ながらパラグライダー２件、動力付きパラグライダー２件の死亡事故が発生しました。事故対策のひとつとして、パイロットに定期的リパックの重要性を知ってもらい、正確な知識と技術を持ってもらうため、JHFレスキューパラシュートリパック認定証規程を制定しました（2009年４月１日に開始）。

□普及

JHFは普及活動の一環として、日本航空協会が行っている航空スポーツ教室（小学生対象）に参加を続けており、正会員の協力を得てPG体験コースを担当しています。2008年度は東京都で２ケ所、宮城県で１ケ所の開催がありました。

□ボランティア登録

多くの方にJHF活動に参加してもらおうと、前年度に開始したボランティア登録。登録数はまだ少ないのですが、ボランティアの皆さんの貴重なアドバ

第1回アジアビーチゲームズから。バリ島のティンビスが競技の舞台になった。右の砂浜にアキュラシーのターゲットがある。（大澤豊撮影）

イスに助けられました。今後もさまざまな分野の知識・技術をお持ちの方の登録を期待します。ご協力ください。

□会費の口座振替

年度末のフライヤー会員有効登録者は11,258名。2007年度に比べて5.5%減少（2007年度は前年の7.4%減少）しました。登録忘れを防ぎ無保険飛行をなくすため、2007年度に会費の口座振替を導入。2008年度はその推進につとめ、年度末で901名の会員が口座振替を利用しています。

□公益認定

12月の新法人三法完全施行を見据え、前年度に公益法人制度改革三法特別委員会（略称：三法委員会）を設置。同委員会の提言をもとに、JHFは新法に則った公益社団法人の認定をめざすことが６月総会で決まりました。施行後５年以内に新法人への衣替えをする必要があり、公益認定を受けられるよう制度の整備などについて調査を始めました。

2008年度の収支

JHFの予算も総会で決まります。年に2回通常総会を開いていたときは、３月総会で次年度予算を、６月総会でその年度の補正予算を決定していましたが、現在は６月総会でその年度の予算を決定しています。新年度が始まる４月１日から６月総会までの間は、前年度並みの出費を前提として活動を行います。

JHFのさまざまな動きの要となるのが事務局です。2008年度は、その事務局の経費節減にあらゆる努力をしました。コピー・印刷、郵送費の節約はもちろん、電話その他の契約の見直し、人件費の思い切った見直し等を実施した結果、単年度黒字の決算になりました。といっても、厳しい状況は変わらず、事業費はかなり切り詰めたものでした。

１月には、フライヤー会員登録者が自動的に加入している第三者賠償責任保険の保険料が値上げになりました。会員数減少や多額の賠償金支払い例から、理事会では保険料値上げを想定して将来のJHF予算をシミュレーションしていましたが、今回の値上げ幅は想定より大きく、フライヤー会費値上げの検討を余儀なくされました。

2007年度・2008年度のJHF役員

2007年の通常総会で次の10名がJHF役員に選任され、理事・監事として活動してきました。この６月17日の総会で新役員が決まるまで、それぞれの役目を果たします。

◇理事

会長：内田孝也　副会長：菊池守男
常任理事：下村孝一、城涼一、
　　松田保子
理事：荒井健雄、大澤豊、狩野智子＊

◇監事

市川孝、對馬和也

＊狩野理事は2008年総会で承認を得て産休中です。

全国で教員・助教員更新講習会を実施

2008年９月から都道府県連盟の協力を得て、日本全国で新しいスタイルの教員・助教員更新講習会を行ってきました。

この講習会は、全国の教員・助教員に新しい知識を共有してもらい、より安全な教習をするための技術を再確認してもらうもの。３年ごとの技能証更新をする教員・助教員は、必ず参加することになっています。更新時参加義務を決定した数年前からのJHFの大きな課題ながら、なかなか再開の準備が整いませんでしたが、各地の教員検定員の頑張りもあり、ようやくリスタートすることができました。

講習は実技と座学です。実技は気象条件やエリアの立地条件にも左右されますが、たとえば11月21日の群馬県での講習では、ピッチングとローリングをスクール生の立場、インストラクターの立場で行い、グランドハンドリングではスラロームを実施。教習の原点に帰ってテイクオフ・ランディングも含めて見直しました。座学ではJHFの最新情報をもとに、揚力・旋回理論、EN、レスキューパラシュートのリパック方法などの講義を行い、無線機に関する情報共有や事故についての意見交換を行いました。

この講習会は、2008年度だけの事業ではなく、今後ずっと続けていくものです。実施日や会場については、JHFウェブサイトのトピックス「JHF教員助教員更新講習会のお知らせ」で随時ご案内していますので、教員・助教員の方はお見逃しなく。また、原則として（会場の事情によりますが）教員・助教員以外のフライヤーも参加できますので、ご希望の方はお問い合わせください。

2009年度の予定

総会で決定する事業計画と予算の案は理事会が策定します。2009年度の案はすでに47正会員に届いており、６月17日の総会で採決される予定です。

JHFの大きな課題がHG・PGの安全な普及振興であることはいつも変わりませんが、下記のことを2009年度の特に重要なテーマとして、理事会は事業計画・予算案を作りました。

□法人衣替え

2008年度総会で、新法に則った公益社団法人をめざすことが決まりました。これを受けて、三法委員会が中心となって情報収集と研究を続けてきた結果、現在のJHF定款を公益認定委員会の推奨するスタイルに書き替えて、2010年総会で定款変更を決議し、移行申請手続きに入るという道筋が見えてきました。今後、定款のほか会計制度や税務などの検討に取りかかります。

□正会員やスクールとの連携

フライヤー会員の減少に歯止めをかけ、愛好者の増加を図るには、まずJHFが信頼される組織であり、責任ある行動を示すことが求められます。そこで、これまで以上に正会員との連携を深め、教員・助教員が所属するスクールとの連絡も密にしていきます。

□会員管理と技能証規程

フライヤー会員登録と技能証制度はJHFの存在の原点です。どちらも時代の変化に合わせて少しずつ変更をしてきましたが、2009年度は事務局の会員管理システムのリニューアルと技能証規程の改定を行います。

＊会費改定

フライヤー会員の減少による収入減、保険料値上げによる支出増などがJHFの財布を直撃しています。理事会はフライヤー会費の値上げ案を総会議案として上程しました。値上げが決定した場合は、その準備を整えていきますが、2009年度予算案には改定に伴う収入支出を組み込んでいません。

［理事会］

現在の役員は任期満了を迎え、６月総会で新役員の選挙を行います。5月27日に選挙管理委員会がJHFウェブサイトで、理事・監事の立候補者を公示しました。

正会員に選ばれた新理事はその日から責任を担い、総会で承認された事業計画と予算にそって、JHFの舵取りをしていきます。

理事会での決定事項は、今後もJHFウェブサイトのトピックスに掲載していきます。できるだけ早く読んでいただけるようにと、事務局員が頑張ってまとめています。ぜひご覧ください。

［委員会］

常設委員会の委員は任期の２年目に入りました。委員は自由飛行の環境を守るために自ら手を挙げて、委員会活動のための時間とエネルギーをひねり出しています。フライヤーの皆さん、楽しく安全に飛び続けたいと思う仲間として、委員を応援してください。また、2009年度の末には、現委員の任期満了に伴い新委員の公募を行いますので、ぜひ応募してください。

リパック認定証制度をスタート

高高度飛行にレスキューパラシュートの装着は常識ですが、その扱いについて正確な知識を持っていると胸を張れる人は少ないようです。JHFは、リパックやハーネスへの取り付けの正確な知識と技術をパイロットに持ってもらい安全性を高めるために、2008年に「JHFレスキューパラシュートリパック認定証規程」を制定しました。この規程に基づき、安全性委員会、制度委員会、教員・スクール事業委員会が、認定証の発行・運用、取得者の権利と義務などを検討。2009年４月１日に取得希望者の受け付けと検定を開始しました。JHFウェブサイトのトップページ「フライヤーサポートデスク（左のインデックス）→リパック認定証について」もご覧ください。

◇認定証の概要

１．HG、PGともにパイロット以上の技能証保持者が検定に合格すれば取得できます。

２．検定は実技検定と学科検定の両方です。

３．取得し業務としてリパックした場合などは、ログの記録義務を持ち、公認リパックタグの装着をします。

公認リパックタグを装着したところ。

４．検定前の練習課程で20回のリパック（過去１年以内）を確認しますので、自前のログブックなどで記録をしてください。

５．認定証の有効期限が３年の更新制です。

６．更新の条件として有効期間（３年間）内に30個のリパック実績を求めます。

７．申請料は5,000円です。

◇取得の手順

１．JHF事務局に検定受検希望のご連絡をください。

２．その際、練習課程に必要な20回のリパック記録を提出できるか否か、お知らせください。

３．希望者の検定のために担当となる検定員をJHF事務局が調整します。

４．将来は認定証を取得したJHF教員も検定にあたる予定ですが、当初は教員検定員の中から互選で選任された５名（下記）が検定を担当します。

５．希望者が多い場合、複数の受検者を集めて検定会を開催しますが、業務でリパックをされている方が受検される場合などは、普段の作業場への出張検定もします。

６．受検に必要な費用は、調整時にご連絡しますので、ご負担をお願いします。

７．合格したら、検定員の指示に従いJHF技能証申請用紙で事務局にご申請ください。掲示するのに適した認定証を発行します。

８．公認リパックタグの領布やログブックの統一フォーマットの配付を行います。希望者にはリパック用具一式の斡旋もします。

◇認定証授与者（初代の検定担当者）

伊尾木浩二（群馬県）
板垣　直樹（茨城県）
桂　　敏之（茨城県）
外村　仁克（和歌山県）
山下　慎吾（岡山県）

＊各人はカッコ内の県連盟に所属

◇講習会

日常的にリパック作業をしていないフライヤーからの要望を受け、検定会だけでなくリパック講習会を行うこと

6月総会で役員選挙を実施

JHFの役員（理事・監事）の任期は２年間。現役員が任期満了を迎え、６月17日の総会で選挙を行います。投票権を持つのはJHFの正会員（都道府県連盟）で、代表が選挙管理委員会の仕切りにしたがって投票します。理事の定員は６名以上11名以内。監事は２名以内。立候補者数が定員を超えない場合は、信任投票になります。総会の場なので、立候補者がじっくり公約などを述べる時間は残念ながらありません。そこで、JHFウェブサイトに各人の立候補意志表明書を掲載しています。フライヤー会員ひとりひとりが投票することはできませんが、投票権を持つ正会員への働きかけという形で、ぜひ参加してください。

フライヤーの明るい未来を作ろうと立候補したのは、下記の皆さん（あいうえお順）です。

◇理事候補（９名）

荒井　健雄（栃木県）
市川　　孝（埼玉県）
内田　孝也（東京都）
大澤　　豊（茨城県）
菊池　守男（神奈川県）
工藤　修二（埼玉県）
城　　涼一（静岡県）
安田英二郎（神奈川県）
山口　淳一（神奈川県）

◇監事候補（１名）

對馬　和也（埼玉県）

＊候補者は各々所属する都道府県連盟（カッコ内）の推薦を受けています。

＊選挙の結果はJHFウェブサイトのトピックスに掲載します。

もあります。6月18日に南熱海マリンホールで開催する講習会（講師：伊尾木浩二）は、リパック未経験の方も参加できます。問い合わせ：MACパラグライダースクール、伊尾木（TEL. 0278-72-5828／FAX. 0278-72-5105）

技能証規程の改定

HG草創期、自主ルールの下で飛行し、自由に飛行できる環境を守ろうと、技能証制度がスタートしました。当初は航空協会の管轄でしたが、後にJHFに委譲され、現在に至っています。

JHFでは、HG・PGの進歩に合わせて技能証規程の改定をしてきており、2009年5月に新たな改定を理事会で決定しました。6月17日の総会で正会員に説明のうえ施行します。

今回の改定では、PGの各技能証で習得する課目を大幅に見直し、IPPIカード（国際技能証）との整合性を図りました。また教員・助教員の申請資格を改め、これまで特別扱いだったMPG技能証と、検定を開始したばかりのレスキューパラシュートリパック認定証を統合しました。規程全文は施行後にJHFウェブサイトの制度総覧のページに掲載します。

なお、改訂作業中のPG教本は、新しくなった技能証規程にそった内容にしています。

JHFの制度や事業に関する情報をウェブサイトで公開しています。都道府県連盟への問合せもお気軽に。

福島県連盟からのお知らせ

福島県ハンググライディング連盟の定時総会を今年4月25日に三ノ倉高原で開催し、昨年度の事業・収支報告、今年度の事業・予算の決定、リーグ上位者や功労者の表彰などを行いました。今年度は下記の検定や大会を予定。ぜひご参加ください。

7月4日　XC・助教員学科検定
7月5日　NP・P学科検定
7月25日　スポーツキッズ体験プログラム（26日予備日）
8月22日・23日　猪苗代PGカップ
10月24日・25日　福島県総合体育大会／米・こめカップ三ノ倉高原／大矢杯PG&HG大会、助教員実技検定
12月5日　安全講習会

にし阿波で第2回FAIパラグライディングアジア選手権開催

第2回FAIパラグライディングアジア選手権の開催まで1年を切りました。

2010年4月29日から5月9日まで、徳島県のにし阿波地域は、アジア各国と日本のPGパイロットの熱い競い合いの場となり、地元住民の方や観光客も含む大きな交流の舞台となります。

「にし阿波」は、その字のとおり阿波の国の西部、吉野川流域の一帯です。訪れる人は名所旧跡を歩くのはもちろん、豊かな自然を満喫しながら、PGをはじめさまざまなスポーツを楽しむことができます。

史上2回目のPGアジア選手権を迎える美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町では、選手受け入れの準備を進めながら、地元の方や観光客にスカイスポーツを知ってもらうためのイベントをいろいろ企画しています。また地元の方が中心となった「アジア選手権サポートの会」も立ち上がりました。

アジア選手権はFAIが公認する大陸選手権のひとつ。世界選手権と同じくカテゴリー1の大会です。総合・女子・国別の成績により、各アジアチャンピオンが決まります。来年、表彰台の一番高いところで笑うのは、どんな顔でしょうか。もしかしたら……あなたかもしれません。

アジア選手権については、JHFウェブサイトでもお知らせしていきます。選手として、観客として、サポーターとして、皆さん、ご参加ください。

第21回パラグライディング日本選手権にし阿波（アジア選手権プレ大会）から。テイクオフを上から見る。（吉富隆生撮影）

第21回パラグライディング日本選手権にし阿波（アジア選手権プレ大会）から。吉野川を見下ろして。（吉富隆生撮影）

競技報告　2008年－2009年

世界選手権

三つの世界選手権に選手を送り出しました。

□FAIハンググライディング
世界選手権
第11回クラス1女子
第17回クラス2
第4回クラス5

2008年７月19日～８月２日
イタリアSigillo（モンテクッコ）

開催地のモンテクッコは、イタリア中部のなだらかな丘陵地帯を貫く南北の山脈にあり、広いテイクオフ場を持つ。1999年にもクラス１世界選手権が開催されたエリアだ。練習日の数日間は強風で飛べなかったが、本戦開始後は毎日飛べる条件になった。日本代表はクラス１女子６名と、クラス５の５名、計11名で、過去最大規模のチームとなった（クラス2の参加はなし）。選手権全体でも女子が増え、以前より参加数が多かったのが嬉しい。

特筆すべきはクラス５の板垣直樹の活躍。常に先頭に立ち、他選手を引っ張って果敢に飛ぶ「赤い尾翼」はすっかり有名になった。優勝候補の一人であるロベルトも板垣をしっかりマーク。表彰台は手の内と思われたが、９日目の失敗が響いて順位を落とし、それでも６位入賞を果たした。クラス５初参戦の加藤実も、フレキシブル（クラス１）と異なるレース展開に最初戸惑いが見られたが、次第に適応して順位を上げ、タスク７ではトップゴールを決めた。昨年のテキサスに続き、日本勢の実力は世界の強豪と並ぶ水準に来ていることが印象づけられた。

一方クラス１女子も、ドイツ・ロシアと並んでフル参戦（４人＋２人）を果たした。イタリアやフランスですら少数の参加だったことを考えると、日本女子の選手層の厚さは誇るべきことだ。そして、女子チームは史上初の団体３位という快挙を成し遂げた。特に鈴木皓子は、世界選手権初参加ながら日本でのフライトと変わらず積極的に飛び、８位入賞を果たした。

チームリーダー　北野正浩

［クラス１女子個人］
１位　Corinna Schwiegershausen　ドイツ
２位　Francoise Dieuzeide　フランス
３位　Kathleen Rigg　イギリス
８位　鈴木　皓子　16位　加味根あかり
17位　谷古宇瑞子　18位　桜井さやか
22位　井手　有生　26位　澤田ほむら
［クラス１女子国別］
１位　ドイツ
２位　ロシア
３位　日本
［クラス２個人］
１位　Manfred Ruhmer　オーストリア
２位　Steve Cox　スイス
３位　Brian Porter　アメリカ
［クラス５］
１位　Alessandro Ploner　イタリア
２位　Christian Ciech　イタリア
３位　Robert Reisinger　オーストリア
６位　板垣　直樹　18位　加藤　実
26位　山本　剛　31位　小林　正和
38位　境　卓史
［クラス５国別］
１位　イタリア
２位　オーストリア
３位　フランス
５位　日本
＊世界選手権は原則として２年に一度開催。昨年のテキサスはクラス１。

テイクオフサイトに並んだクラス5とクラス1のグライダー。壮観。

圧勝のコリーナ。活躍の場は女子競技に限らない。

クラス1女子のトップ3。

クラス2のトップ3。

クラス5のトップ3。

にぎやかな日本チーム。

□第11回FAIパラグライディング世界選手権

2009年１月23日～２月６日
メキシコValle de Bravo

今回の世界選手権は悪天候に見舞われた前回オーストラリアとは正反対で、連日強烈なサーマルコンディションの中で毎日100km平均、３時間のタスクがこなされた。Valle de Bravoは2001年から毎年のようにパラグライダーの大会を開催してきているが、飛行確率90%以上という高確率を維持し、今回も例外ではなかった。当然、選手のモティベーションも前回とは比べものにならないぐらい。

日本チームは、前回のメンバーに新人若手の川上選手を加えた顔ぶれ。結果を見れば、女子で銀メダルを獲得した平木選手以外は、期待していたほどの成績をあげることができなかった。その主な原因は、サーマル内での上げる速度、トランジット中の速度とグライダーコントロール（潰さないように、できるだけ速く）の差であると思う。日本チームのメンバーは国内ではトップの速さを持っているのだが、世界のレベルは一段と高いところにあるのを、改めて実感した次第だ。世界と互角に競うには、海外のトップ選手と一緒に飛ぶ機会を多く持たなければならない。今後への課題だ。

チームリーダー　岡　芳樹

ゴールめざしてテイクオフ。独特な形の山が印象的。

日本チーム。がんばるぞーっ。

ゴールにて。タイムはどうだ?

総合トップ3。

女子トップ3。左が平木選手。

［個人総合］
１位　Andy Aebi　スイス
２位　Stefan Wiss　スイス
３位　Aljaz Valic　スロベニア
59位　上山　太郎　69位　平木　啓子
71位　若山　朋春　76位　川上　賢一

［個人女子］
１位　Elisa Houdry　フランス
２位　平木　啓子　日本
３位　Anja Kroll　スイス

［国別］
１位　チェコ
２位　イタリア
３位　スロベニア
22位　日本

日本選手権

四つの日本選手権を開催しました。

□第2回パラグライディング アキュラシー日本選手権 in 南陽

2008年９月21日～23日
山形県南陽スカイパーク

注目のアキュラシー、２回目の日本選手権。徐々に増えてきた競技者の頂点に立ったのは、初回開催地の宮城県で気を吐く山谷選手。初の女子選手権者も誕生。今後が楽しみだ。

［総合スクラッチクラス］
１位　山谷　武繁　宮城県
２位　遠藤　敏昭　宮城県
３位　加賀山　務　静岡県

［女子クラス］
１位　茂呂可寿美　山梨県
２位　本野　広子　神奈川県
３位　五十嵐久美　宮城県

新チャンピオン、山谷＆茂呂選手。

□第20回パラグライディング 日本選手権 in AKAIWA

2008年10月30日～11月４日
栃木県赤岩エリア

予備日の４日まで競技を行い、２タスクが成立。予想より早く高層雲が張り出し、日照との競争となった１本目、トップは若山選手。15時近くまで諦め

競技報告　2008年－2009年

なかった平木選手の飛びは圧巻だった。２本目はAKAIWA周辺のコンディションはよかったが、ゴール付近で渋くなってしまった。トップは竹内選手。２タスクで平木選手が総合・女子両方の選手権者となり、史上初の快挙を成し遂げた。

［総合］
１位　平木　啓子　北海道
２位　川上　賢一　愛知県
３位　上山　太郎　大阪府
［女子］
１位　平木　啓子　北海道
２位　Junghun Park　韓国
３位　中目みどり　東京都

ダブル選手権者、平木啓子。（パラワールド提供）

□2009ハンググライディング日本選手権 in 紀ノ川スカイグランプリ

2009年３月18日～22日
和歌山県紀ノ川フライトパーク

強風が続き21日のみの競技成立で、日本選手権者の決定はできなかった。前回の日本選手権も1タスク成立でチャンピオンを選べなかっただけに非常に残念。

［総合］
１位　豊田　良平　神奈川県
２位　平林　和行　千葉県
２位　太田　昇吾　千葉県
［女子］
１位　桜井さやか　栃木県
２位　鈴木　皓子　京都府

総合トップ6。勝者の豊田は選手権獲得ならず。

女子トップ3。

３位　小林奈緒子　茨城県
［学生］
１位　鈴木　皓子　京都府

□第21回パラグライディング日本選手権にし阿波（アジア選手権プレ大会）

2009年５月２日～６日
徳島県吉野川流域エリア

2010年の第２回パラグライディングアジア選手権の舞台となる徳島県にし阿波地域で開催。プレアジア選手権も併催し、中国からの参加もあった。２本成立したタスクは、山岳のサーマルを効率よく掴み、吉野川の南岸北岸を谷渡りするビッグなもので、このエリアを象徴していた。村上選手が日本選手権者となり、女子日本選手権者は平木選手が昨年に続き獲得。

地元自治体と地元住民そして地元フライヤーの方々によるサポート体制が準備され、来年のアジア選手権に向けての地域の取り組みは素晴らしいものだった。

［総合］
１位　村上　修一　東京都
２位　武貞　伸明　兵庫県
３位　平木　啓子　北海道
［女子クラス］
１位　平木　啓子　北海道

総合トップ3。

女子トップ3。

シリアルクラストップ3。

HG日本選手権。紀ノ川を眼下に粘る。

PG日本選手権。来年はここにアジアの選手が集結する。

２位　伊藤　弥生　奈良県
３位　高田　奈緒　埼玉県
［シリアルクラス］
１位　豊島　　滋　埼玉県
２位　山口　　翔　山形県
３位　関根　靖明　神奈川県

JHFランキング

各リーグのトップランカー

□ハンググライディングシリーズ
総合１位　大門　浩二　茨城県
女子１位　鈴木　皓子　京都府
□パラグライディングジャパンリーグ
［ワールドポイント］
総合１位　和田　浩二　静岡県
女子１位　平木　啓子　北海道
［ナショナルポイントオープンクラス］
総合１位　上山　太郎　大阪府
女子１位　平木　啓子　北海道
［ナショナルポイントシリアルクラス］
総合１位　和田　浩二　静岡県
女子１位　中目みどり　東京都
□PGアキュラシージャパンリーグ
［スクラッチクラス］
１位　山谷　武繁　宮城県
［ハンディキャップクラス］
１位　山谷　武繁　宮城県
□PGクロスカントリーリーグ
１位　関口　典彦　千葉県

＊大会予定や結果、登録等はJHFウェブサイト、HG競技委員会・PG競技委員会のページでご覧ください。

ABG

アジアオリンピック評議会主催

10月18日から26日まで、インドネシアのバリ島で第１回アジアビーチゲームズ（アジアオリンピック評議会主催）が開催され、パラグライディングのアキュラシーとディスタンスが正式競技になった。JHFはさっそく選手を推薦。大澤豊監督と６名（菊田高司、児島彰、矢次真実、横田三郎、五十嵐久美、河村葉子）のパイロットが日本オリンピック委員会によって派遣された。参加国はインドネシア、中国、韓国、マレーシア、タイ、そして日本。

競技の舞台はティンビス。海に面したクリフからテイクオフし、砂浜にランディングする。連日飛べたのはよかったが、日本選手は力みすぎたか、アキュラシーで転倒して失点するなどのミスでメダル獲得ならず。２ヶ月前から国費で合宿していたというインドネシアチームは息が合っていて、その強さが際立った。また、開会・閉会・表彰セレモニーは驚くべき豪華さだった。

青い海を眼下にテイクオフ。リッジで高度獲得を狙うが……。（大澤豊撮影）

日本チーム。次を見ておれ！

テイクオフを待つ女子選手たち。

盛大な表彰式。日の丸を揚げたかった。

今後の世界選手権など

世界選手権の開催地などはCIVL総会で決定される。アキュラシーとクラス１の日本チームはもうすぐ出発だ。

□ワールドエアーゲームズ2009
6月７日～13日　イタリア　トリノ
HG&PGエアロバティック、HGスピードラン、PGアキュラシー
☆岡芳樹選手がアキュラシーに出場

□第5回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権
2009年６月20日～27日　クロアチア
☆日本チーム：岡芳樹（リーダーを兼ねる）、横井清順、菅野剛広、山谷武繁、川村眞、茂呂可寿美、本野広子

□第17回FAIハンググライディング世界選手権（クラス1）
2009年６月21日～７月４日　フランス
日本チーム：大門浩二、鈴木博司、平林和行、和田典久、田中元気、北野正弘（リーダー）

□第2回FAIパラグライディングアジア選手権
2010年４月29日～５月９日　徳島県

CIVL小委員会で競技の諸問題を検討。（岡芳樹撮影）

CIVL総会から

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング＆パラグライディング委員会（CIVL：フランス語で『自由飛行委員会』の略）の総会が、今春はオーストリアで開かれました。例年のように、日本を代表するデレゲート（委員）としてJHFが推薦した岡芳樹さんが、日本航空協会に派遣され出席しました。以下は岡さんからの報告の概要です。

□2009年CIVL総会

オーストリアのHall in Tyrolで２月21日・22日に開催。24ヶ国・地域が出席、票数は委任状を含め30票。

決定事項（特に関心のあるもの）

1. ヨーロッパ以外の大陸選手権は世界選手権と同じ年に開催することも可能とする（全種目）。
2. FAIスポーティングライセンスのデーターベースが稼動し始めた。現在45カ国がインプット済み。
3. FAIはWADA（世界アンチドーピング機構）のアンチドーピングルールに100％従う。FAIがルールを遵守している機関であるか否かの判断はこの５月に行われる。これにより、有力選手は大会中だけでなく日常的にドーピング検査をされる可能性が出てくる。
4. チームスコアに関して：各国チームの各タスクにおけるベスト２選手の合計とする（PG）。各国チームの各タスクにおけるベスト３選手の合計とする（HG）。PGアキュラシーは変更なし（各国チームの各ラウンドにおけるチームサイズの半分－割り切れない場合は切り上げて整数とする－に相当するベスト選手の合計）。
5. 現ディフェンディングチャンピオン（女子も含め）が国の選抜メンバーとならなかった場合は、チームメンバーとしては扱わないが、ワイルドカードとして選手権に参加することができる（PG）。
6. 選手権において、すべてのグライダーのスプログセッティングを測定し、許容限度を越えてピッチ安定を下げている場合は、セッティングを限度以内に戻させることとし、それに違反した場合はペナルティを課す（HG）。今年のフランスでの世界選手権で実施される。
7. CIVLでハーネス、ヘルメット、グライダーの安全基準としての大枠を決める作業部会を設置する（PG）。
8. ライトハーネスタッチ（LHT）に関する文言をS7C（カテゴリー２ルールの章）から削除。ただし、カテゴリー２大会のローカルルールでLHTを認めることは妨げない。
9. 大陸記録に関しては、前向きに進めてゆく（現在のところ、FAIが承認しているのは世界記録のみ）。各国は、４月１日までに、FAIに現在の国内記録で、その国の存在する大陸で達成された記録を連絡すること。その大陸での現時点でのベスト記録が、今後承認される記録の規準となる。種目は世界記録と同じ。

FAI

FAI 及び日本航空協会　- 共通の使命
普及振興 – 融合 – 養成
スポーツ競技の奨励

JAPAN AERONAUTIC ASSOCIATION

FAI について...

Fédération Aéronautique Internationale

Avenue Mon-Repos 24
CH-1005 Lausanne
(Switzerland)
Tel. +41 (0)21 345 10 70
Fax +41 (0)21 345 10 77
E-mail: sec@fai.org
Web: www.fai.org

約2,000,000	各国の組織を通じて、FAI に加盟しているスポーツ人口
約14,000	樹立された世界記録
約10,000	国際競技会に参加する競技人口
1905	FAIの創設された年
約1,000	活動しているボランティア
100	世界中の加盟組織
約20	毎年実施される世界選手権
10	FAIが統括している航空スポーツの種類
6	ローザンヌ（スイス）にあるFAI本部の職員数
1	共通理念：

飛行への情熱

詳際は下記を参照：
FAI ニュース：www.fai.org
ワールド・エア・ゲームズ 2009：
www.worldairgames.org
通信販売：
http://shop.fai.org

気象条件の急激な変化を想定して安全飛行を

JHF安全性委員会委員長　桂　敏之

春はサーマル条件がよくスケールの大きなフライトを楽しめますが、気象条件の変化が大きく、例年、大事故が起こりやすい時期でもあります。残念ながら、この春も各地でいたましい事故が発生しました。

1．3月30日　モーターパラグライダー
北海道豊浦町大岸海岸
約5メートル沖で死亡　男性（56歳）
救助に向かったと思われる男性（46歳）も死亡

2．4月4日　パラグライダー
群馬県高崎市中室田町のエリア敷地外
墜落による重傷　男性（54歳）

3．4月5日　ハンググライダー
新潟県弥彦村弥彦山山頂付近
テレビ送信所鉄塔に衝突による死亡
男性（49歳）

4．4月11日　ハンググライダー
栃木県芳賀町の休耕地
クラッシュにより意識不明　男性（46歳）

5．4月30日　パラグライダー
三重県四日市市のランディング場脇の雑木林
墜落により死亡　男性（64歳）

6．5月10日　ハンググライダー
岐阜県池田町のランディング場近隣
施設屋根に接触落下し意識不明　男性（35歳）

今春の大事故の傾向には、特徴があります。過去には、経験の浅いパイロットや、激しい危険な条件によって発生した事故が目立ちましたが、今春は、経験ある上級者が、ソアリング好条件時に事故に遭遇する例が目立ちます。荒れた暴力的な風でなくても、サーマル好条件では、風にパワーがあり、風向きや風速の変化も大きいのです。そのため、このような春の気象条件では、それほど危険性を感じさせなくても、急激な変化に遭遇する不運を想定し、慎重な着陸判断に加えて、地表近くでの集中力と機敏な判断が重要だと考えられます。

すでに季節は夏へ移ろうとしていますが、夏でもサーマル好条件のときは、急激な雲の発生や、着陸時の風の変化の可能性を念頭に置いて、安全で楽しいフライトを心がけましょう。

＊このページでは、この春に発生した重傷・死亡事故だけをとりあげましたが、いろいろな事故のニュースが聞こえてきます。そのほとんどは、過去に起きた事故の繰り返しと考えられます。他者の経験からも学んで安全飛行を続けていきましょう。

JHF安全性委員会から

□ウェブから事故報告

JHFは、これまでの事故情報をデータベース化し、傾向等を読み取って再発防止に活かすことを決定し、JHFウェブサイト上から事故報告ができるようにしました。安全性委員会のページに入力フォームがありますので、万一事故が起きてしまったら、ぜひご利用ください（もちろん事故ゼロ、利用無しが一番ですが）。

従来の書類で報告いただく方法でも問題ありません。

現在、事務局で過去の事故の入力も進めています。データベースの活用ができるようになったら、JHFウェブサイトなどでお知らせしますが、事故当事者のお名前など個人情報は公表しません。ご協力をお願いします。

□インシデントの報告も

事故防止に役立てるため「間一髪で事故に至らなかったが危なかった」というインシデントについての報告もお願いしています。

左記の事故報告入力フォームをご利用ください。また、JHF事務局にメールやファクス等でお知らせいただいても結構です。

誰かの「ヒヤリとした」体験を全フライヤーが共有できれば、事故減少につながるでしょう。また万一の事故もダメージを少しでも小さくできるのではないでしょうか。特に全国の教員の皆さん、ぜひご協力ください。

□セーフティーノーツ

パラグライダーやハンググライダーとその関連の機材についての注意事項が、メーカーや公式検査機関から「セーフティーノーツ」として発表され、パラグライディング・ハンググライディング愛好者の注意を喚起するためにインターネット上で公開されています。

JHFでは、主にドイツ連盟から公開されているものを翻訳し、随時JHFウェブサイト（安全性委員会のページ→セーフティーノーツ）に掲載しています。今年は1月9日に10件掲載しましたので、ぜひご覧ください。

あなたの機材についての重要な情報があるかもしれません。

□事故情報の伝達

重大事故が発生すると、フライヤーの皆さんにお知らせして事故の繰り返しを防ぐためJHFウェブサイトのトップページに速報を載せてきました。

今後は安全性委員会のページ（トップ画面左側のインデックスをご覧ください）に事故情報を掲載します。

事故情報は、JHFの正会員（都道府県連盟）やスクール、クラブにメールでもお送りしています。事故の情報がJHF事務局から届いたら、会員や講習生に、同様の事故を起こさないために必要なことをお伝えください。メールが届かない場合はお手数ですがJHF事務局にご連絡ください。

JHF事務局は事故に関する個々のお問合せには対応できません。JHFウェブサイト（安全性委員会ページ）でのお知らせをお待ちください。

全国学生の協力が学連を動かしている

日本学生フライヤー連盟理事長　今西孝志さんに聞く

全国の学生クラブ・サークルを束ねる日本学生フライヤー連盟（学連）。メーリングリストで各地の学生フライヤーがつながり、安全に楽しく飛ぶための、また仲間を増やすための活動を行っている。パラグライディング・ハンググライディングを社会に知ってもらうことも大きなテーマに掲げ、試行錯誤しながらも実績を挙げているが、学連出身以外の社会人フライヤーには、その活動はほとんど知られていない。そこで、この春理事長に就任した今西孝志さんに、学連の現在を語ってもらった。

□学連では、昨年度好評だったことを今年度も継続していくと聞きましたが、具体的にはどんなことを。

より多くの方にパラやハングを知ってもらうことです。昨年度は、９月の鳥取砂丘での合宿を新聞やテレビでとりあげてもらったり、３月の山口県での学生選手権では地元の役所に協力をお願いして、大会開催中というノボリを広範囲に立ててもらって、パラ・ハングの認知度を上げることができました。今年度も大会開催に合わせてメディアへの働きかけを積極的にして、スカイスポーツの認知度を高めていきたいと考えています。また、働きかけのノウハウを共有して、どこの大学でもそれができるように、そして、みんなの経験を蓄積して来年度以降につなげていくつもりです。

□新入生の獲得も学連の大きな課題ですね。今年の感触はどうですか。

新入生勧誘のシーズンが終わったばかりで、まだ全国の様子をつかんでいませんが、僕は大阪大学の学生なので関西に限っていえば、新入部員が去年より増えました。でも、これで安心はできません。新入生はやりたいことがいろいろあって、パラやハングに絞り込んでいないことが多いのです。彼らを夢中にさせて「これしかない！」と思わせることが大事ですね。僕も１年生のときに初めてパラグライダーで飛んだのですが、あの鳥取砂丘での体験がすごく楽しくて、のめり込みました。埼玉出身の僕が、いまでは鳥取をふるさとのように感じるくらいです。もし体験飛行がうまくいかなかったら、そこでやめてしまったかもしれません。

□前理事長の近さんが在籍する弘前大学では、昨年、新入生勧誘のためのプロモーションビデオを自作したそうですが。

弘前大に刺激されて、今年は自分たちでビデオを作った大学もあります。映像を見てもらいながら説明したほうが空を飛ぶことの魅力を伝えやすいし、「これ、オレが飛んでるんだよね」なんていうのは気分がいいですから。自分たちですべて作るには至らなかったけれど、弘前大が映像を提供してくれたので、それをアレンジした大学もありました。４月から５月前半の短い間に新入生を惹き付けなければならないので、その方法をみんな考えに考えています。勧誘についてもノウハウの共有を進めて、助け合い、刺激し合いながら、いい形を作っていけたらと思います。

□砂丘の清掃など社会奉仕的な活動もしていますね。

毎年の合宿でお世話になっている砂丘で、草取りをしています。このボランティア活動もメディアにとりあげてもらいましたし、鳥取市から礼状をいただきました。日頃楽しく飛ばせてもらっている地域に対する恩返しが、その地域の人たちにパラやハングを知ってもらうきっかけになり、一石二鳥です。今後も学連としてこのような活動を続けていきたいと考えています。

□学生選手権をはじめとする競技会は例年どおり開催の予定ですか。

昨年度の学連の大会は、パラが２回、ハングが３回でした。年に２回だけでは、気象条件に恵まれなければどちらも成立しない場合があり、今年度はパラの大会を３回に戻します。全国の学生フライヤーが集まる大会は、スキルアップの場であり、親睦を深める場でもあります。もっと積極的に参加してもらいたいのですが、大会参加者は減ってきました。特にパラは競技指向ではない人が多く、大会ならではの楽しさをどうやって知らせていくか、考えていく必要があります。

□最後に、今西さんの理事長としての課題は何でしょう。

学連は春に総会を開いて、いろいろなことを話し合っていますが、過去にやろうと決めても実行しなかったことがあるので、今年度はみんなで決めたことは実行に移したいと思います。それから、学連を構成する大学の協力関係をさらに強化すること。互いに協力し合わなければ、学連が存在する意味がありません。学連に所属していない大学クラブに「一緒に活動しよう」と声をかけることも大事ですね。

学生フライヤーは数年で顔ぶれが変わっていきます。これまでみんなが経験し学習してきたことを、次の世代にきちんとバトンタッチすることを意識して、来春まで理事長をつとめたいと思っています。学生フライヤーの協力はもちろん、社会人の皆さんの応援をお願いします。

協力し合って頑張る。左端が今西さん。

木島平ミーティングにも参加。（実行委員会提供）

日本学生フライヤー連盟への連絡は、下記の掲示板から。
http://bbs4.sekkaku.net/bbs/jsff.html
ウェブサイト　http://jsff.org/

学生連盟 2009年度役員

理 事 長：今西 孝志
副理事長：二宮 和也、三竹　諒
地区理事：東北：相原 奈緒
関東：中村 昂一郎
関西：二杉 瑠香
北陸：小寺 美沙
中国：山崎 まさし
九州：吉井 峻
会　　計：中村 昂一郎
ﾒｰﾘｽ･名簿：江川 友寿
Ｈ　　Ｐ：工藤 尊志
広　　報：若狭 里奈、荒井 朋子
HGリーグ：加藤 裕二、戸田 隼也、田盛
PGリーグ：鈴木 雄三、小寺 景子、土田 克茂
HG審議会：小梶 渓太、二宮 和也、山口
PG審議会：今西 孝志、奥山 俊、安住 亮介
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：近 洋平、安池 伸夫

学生連盟2009年度スケジュール（予定）

〈パラグライディング〉
8月 わにカップ（22・23日）、尾神
9月 砂丘合宿、JAM合宿（3週目）
10月 パラフェスタin足尾
11月 新人戦、PINKCUP、神の倉
3月 学選in紀ノ川
〈ハンググライディング〉
8月 NASAS
9月 砂丘合宿
11月 新人戦、PINKCUP、西学in龍門
3月 学選in耳納
＊学連未加盟の学生フライヤーの皆さんもお気軽に遊びに来てください。

『JHF総合保障制度』新規募集中！

フライヤーのための傷害保険制度である『JHF総合保障制度』の2009年度募集がスタートします。今年度で4年目を迎えるこの保険制度は、現在774名の会員の皆様にご加入いただいております。今回も昨年同様、新規加入ツール一式を同封しておりますので、この機会に是非ご加入をご検討ください。

◇（重要）現在ご加入の皆様へ

現在ご加入の774名の皆様には、現在のご加入内容をご確認のうえ必要なお手続きができる「更新のご案内」を別途直送させていただきますので、そちらの書類を良くお読みいただきお手続きください。なお現在の内容で更新いただく場合はお手続き不要です。（詳細は同封のパンフレットをお読み下さい）

◇JHF総合保障制度の特長

国内・国外を問わず、パラグライダー（含むモーターパラグライダー）搭乗中はもとより、仕事中や日常生活中のケガおよび遭難の際にかかった捜索費用等の補償をいたします。

団体割引10%が適用されますので、保険料が割安です。

ハンググライダー愛好者向けのプランもご用意しております。

保険料のお支払いは口座引き落しとなりますのでお手続きが簡単です。

◇国内でも海外でも補償

傷害事故：日本国内・国外を問わず、偶然な事故によりケガをされた場合に保険をお支払いします。

救援者費用：日本国内・国外を問わず、偶然な事故により緊急な捜索・救助活動を要する状態となった場合等に保険金をお支払いします。

詳細は同封のパンフレットをよくお読みください。

◇新規ご加入方法

新規にご加入される場合は、以下の流れに沿ってお手続きください。

プランを決定します⇒パラグライダーのみ、ハンググライダーの補償も希望で選択、またご自身の職業・職務をご確認いただきプランを決定ください。

加入口数を決定します⇒1口あたりの保険金額と保険料をご確認いただき口数を決定ください。なおお支払いいただく掛金は、1口あたりの保険料×口数＋制度運営費400円となります。

必要書類への記入⇒記入例を参考に正しく漏れのないようご記入ください。またご印鑑は口座届出印を押印ください。

締切厳守⇒6月25日（木）必着で送付ください。

◇中途加入も可能です

締切終了後の加入申込は全て中途加入扱いとなります。（毎月10日締切。締切日までに手続きを完了された場合、翌月1日午後4時より補償開始）詳しくは、取扱代理店の（株）東海日動パートナーズ・ノースワン池袋店へお問い合わせください。

◇加入者証は8月下旬頃送付します

お手元に届くまでしばらくお待ちください。

【保険に関するお問い合わせ先】
代理店
（株）東海日動パートナーズ・ノースワン池袋店（担当：奥野・亀澤）
〒170-6030
東京都豊島区東池袋3-1-1サンシャイン60ビル
（TEL. 03－6907－4622）

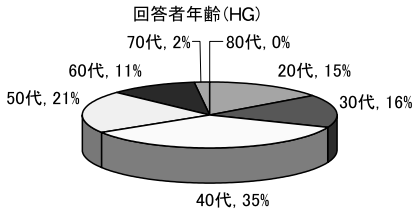
仲間を増やすためのアンケートから

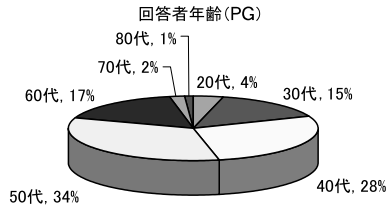
フライヤー会員数の右肩下がりが続いていますが、空を飛ぶのは多くの人間の憧れであるはず。もっと多くの人にスカイスポーツの醍醐味を知ってもらい仲間を増やすために、現役フライヤーの皆さんの現状を知ろうと、JHFは昨年５月20日のJHFレポート189号とJHFウェブサイトにおいて「仲間を増やすためのアンケート」を実施しました。Q.1からQ.34までの質問のうち、回答をある程度絞りこめた質問について、お知らせします。

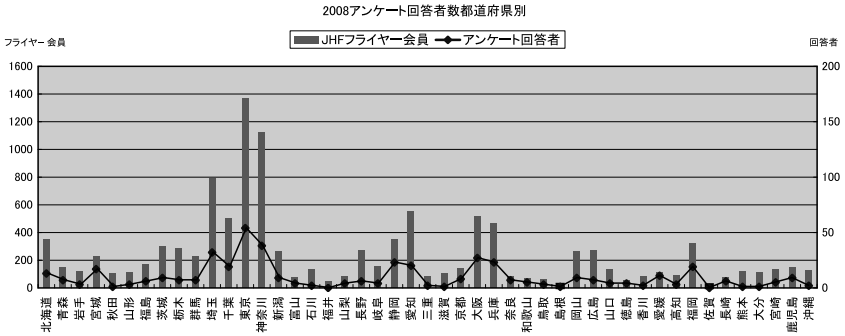
翼別の回答者数と年齢層・居住都道府県

☆ハンググライダー（HG）89人、パラグライダー（PG）355人、動力付きパラグライダー（MPG）12人、合わせて456人の方が回答してくださいました（右の表）。全フライヤー登録者数の約4%にあたります。その年齢層はHG、PGとも40歳代と50歳代が多く、実際のフライヤー年齢層に近い数字だといえます。HGの20歳代15%に対しPG４%というのは、学生HGフライヤーが積極的に活動している証しかもしれませんが、回答の絶対数が多くないため何ともいえません。PG80歳代が１%（２人）いらっしゃるのは、嬉しい驚きです。『生涯スポーツ』であるPGを、さらに多くの人が長く安全に楽しめることを願います。また、回答者の居住地分布は、JHFフライヤー会員の分布とほぼ重なりました（右のグラフ）。

		（女子）	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計
HG	インターネットによる回答	10	9	11	24	12	3	1	0	60
	アンケート用紙による回答	6	4	3	7	7	7	1	0	29
	計	16	13	14	31	19	10	2	0	89
PG	インターネットによる回答	12	13	37	68	68	26	1	1	214
	アンケート用紙による回答	10	2	16	30	52	35	5	1	141
	計	22	15	53	98	120	61	6	2	355
MPG	インターネットによる回答	0	0	1	1	0	2	0	0	4
	アンケート用紙による回答	0	1	1	0	2	4	0	0	8
	計	0	1	1	1	2	6	0	0	12



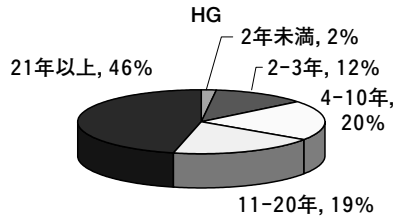


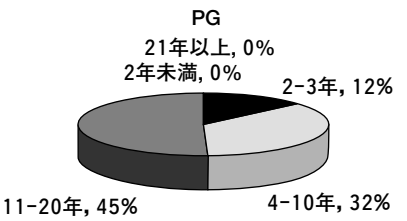


【Q.6】フライトを始めて何年目

☆HG21年以上が46%、PG11～20年が45%、MPG2～3年が42%。いずれも世間で注目された時期に飛び始めた人が多いことを示しているようです。また、HG・PGは、かつての賑わいを記憶しており仲間をもっと増やしたいと切実に感じている方々でもあるでしょう。

	2年未満	2-3年	4-10年	11-20年	21年以上
HG	2	11	18	17	41
PG	22	41	114	158	20
MPG	0	5	3	4	0

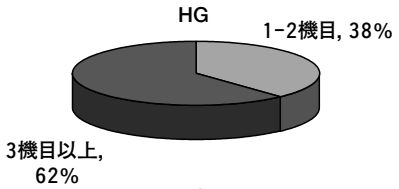


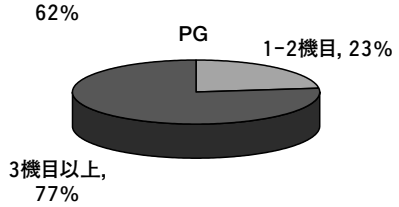


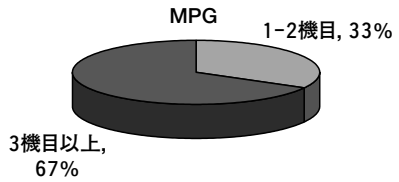
【Q.7】現在所有の機体は何機目

☆HG、PG、MPG、いずれも３機目以上が多かったのは、一人前のフライヤーとして自分自身が楽しむだけでなく、積極的に仲間を増やしたいと考えている人たちが回答してくださったからでしょうか。PG3機目以上が77%と他より大きな割合であることから、それだけ機体の乗り換えが早いことが考えられます。

	1-2機目	3機目以上
HG	34	55
PG	81	274
MPG	4	8







【Q.10】HG・PGに興味を持ったきっかけ（複数回答可）

実際にフライトしているのを見て　173（38%）
体験フライトの宣伝を見て　22
テレビ番組を見て　77
テレビCMで見て　7
一般雑誌を見て　38
インターネットで見て　26
友人・知人の誘い　86（19%）
JHF・県連資料　0
専門誌を見て　41
広告看板を見て　12
空を飛びたかったから　16

☆「実際にフライトしているのを見て」が圧倒的多数です。飛んでいるのを見て、気持ちよさそうだったから自分もやりたくなったという人。簡単そうで自分にもできると思ったという人、さまざまでしょう。もっともっと多くの人に見てもらう工夫が必要ということです。「JHF・県連資料を見て」がゼロ……頑張らねば。

【Q.13】あなたが感じるHG・PGの一番の魅力はなんでしょうか（具体的に記入）

鳥のように空を自由に飛べること
自然の力での飛行
自然との一体感
地上から離れての浮遊感
上昇気流、下降気流を実感、サーマルに乗っての上昇
無動力で3次元空間を移動
のんびり空中散歩
地上からでは得られない空からの景色を堪能できる
テイクオフの喜び、フライト中の緊張感・爽快感、ランディング後の達成感と開放感
大自然の中で気の合う仲間と語り合うこと
☆飛行そのもののおもしろさのほか、多くの回答が、自然と一体になる喜びにふれています。フライヤーは自然のなかでこそ活力を充填できる人種かもしれません。

【Q.14】あなたが練習している／したスクールを何で知りましたか（複数回答可）

実際のフライトを見て　91（20%）
体験フライトで　25
テレビで見て　16
一般雑誌を見て　35
インターネット検索　74
友人・知人の誘い　134（29%）
JHF・県連資料　3
専門誌を見て　78（17%）
広告看板を見て　25
そこしかなかった　20
☆最も多かったのが「友人・知人の誘い」。空を飛ぶからには、信頼できるスクールだとわかっているところで……ということでしょうか。また、ひとりではなく友人・知人と楽しく練習したいという気持ちもあるでしょう。

【Q.15】スクールを選んだ理由は（複数回答可）

通いやすい場所にあるから　253（55%）
エリアが魅力的だから　82
スクール費用が魅力的だから　49
雰囲気がよかったから　113（25%）
スタッフの質がよかったから　60
HPの内容が良かったから　12
友人・知人・そこしかなかった・他　132（29%）
☆やはり「通いやすい場所にあるから」が最多です。人口の多い都市の近くで交通が便利なところに練習エリアがたくさんあるといいのですが。「雰囲気がよかったから」という回答が多かったのも当然のこと。誰でも、よい雰囲気のなかで楽しく練習したいと思います。

【Q.19】スクール受講時に感じたこと、インストラクターに望むことは？（具体的に記入）

サービスマインドを持って　54
→機材を売らんかなではなく、やさしく愛想よく、わかりやすく親切丁寧に。
教え方の統一、平準化　26
→インストラクターの知識、技術や教え方にばらつきがある。信頼性を大切に。
教程に沿った一貫性　17
→教程のどの段階にいるのかが不明確。いつ合格するのか。
座学をもっと　16
→飛行、気象、リスクなどに関する基礎的な知識や理論を。
インストラクター増員を　10
→離着陸場の両方にいてほしい。
不満はなかった　38
→厳しいが的確に、親切、楽しく教えてもらった。
☆一番多い回答が「サービスマインドを持ってほしい」だったのは、HG・PGスクール業界が未だ成熟していないということでしょうか。お客様である講習生に対する言葉遣いや態度など、スクール経営者やインストラクターの皆さんは自己採点してみてください。

【Q.22】安全フライトのためにどのようなことを一番意識していますか（具体的に記入）

無理をしない　156（34%）
気象・フライト条件　119（26%）
プレフライトチェック　33
一人で飛ばない　9
一番にテイクオフしない　8
エリア状況　7
☆多くの人が「無理をしない」ことを一番に意識しています。ビギナーもベテランもそれぞれの力の70%で飛ぶことを、いつでも忘れずにいたいものです。100%で飛んでいて、何か予期しないことが発生したら、冷静に対処できずパニックに陥る恐れがあります。

【Q.28】HG・PGを始めてよかったことはなんですか、また悪かったことはありますか（具体的に記入）

［よかったこと］
空を飛ぶという子供の頃からの夢が叶った
すばらしい多くの仲間にめぐり合えた
一生続けたいと思うものが見つかった
自然（空、雲、風、景色）との出会い
気象に関心を持つようになった
風待ちなどで辛抱強くなった
ストレス解消
［悪かったこと］
出費がかさむ
家庭サービスがおろそかになった
天気が良い日には他のものが後回しになる
仲間の怪我
☆よかったことに「一生続けたいと思うものが見つかった」という回答がありました。HG・PGに興味のある人にも、このスポーツを知らない人にも、ぜひ聞かせてあげたいものです。
悪かったことに「家庭サービスがおろそかになった」とあるのは、それだけやましい気持ちで休日はエリア通いをしているということでしょうか。ご家族同伴で楽しめるエリアなら一石二鳥ですが。

【Q.30】普及のアイデア（具体的に記入）

マスメディアへ露出度を高める　102（22%）
機材価格の低減　86（19%）
体験・入門コストの低減　15
もっとかっこ良く・キレイなトイレ　6
☆マスメディアにもっと露出をという回答が多くありました。テレビ、新聞、雑誌などで紹介されれば、非常に多くの人の目に触れ、HG・PGの魅力をアピールすることができます。また、動画サイトなど新たなメディアでの露出も効果的でしょう。JHFとしても頑張りたいところです。「もっとカッコよく」とか「キレイなトイレ」というのは、回答者であるフライヤー自身の要望でもあるでしょう。興味があってエリアに来た人をトイレで幻滅させたくないものですね。

【Q.31】都道府県連盟への加入

都道府県連盟に未加入　218（48%）

【Q.32】都道府県連盟に加入していない理由

活動を知っているが加入しない　40
→必要性を感じない、メリットがない。
☆都道府県連盟の必要性を感じないという回答が少なくなかったのが残念です。都道府県連盟はJHFの正会員として、各代表がJHFの総会に出席してJHFの進路を決めています。また体験会など普及活動や安全性向上の活動を行っている都道府県連盟も少なくありません。加入するかどうかは別として、何をしているのかのぞいてみてはいかがでしょう。

【Q.33】都道府県連盟の活動

県連の活動を知らない　151
☆都道府県連盟がどんな活動をしているのか、知らない人が多数です。JHFでも各都道府県連盟の活動について、もっと多くの情報をフライヤー会員の皆さんにお伝えすることを考えねばなりません。

【Q.34】JHFへのご要望

JPAとの統合或いは関係改善　50
→競技などの共催。
JHFレポートの発行継続　41
→発行回数の復活。
事故に関する情報と解説　15
→迅速な事故報告と共に、防止に向けてどうすれば回避できたかの解説を。
一般フライヤー向け情報　11
→競技指向を修正して、一般フライヤー向けの情報を充実。
ウェブサイト記事の内容充実　4
→安全規格（ENとは）、JPAとの関係、フライトテクニック、何故JHFか、等。
☆皆さんの回答について、JHF理事会で検討していく予定です。

JHFからお知らせ

■ボランティアを募集中です

JHFの助っ人になってくださる皆さんに登録していただき、助けが必要なときに動ける方に声をかけ、手伝っていただく『ボランティア登録』がスタートして2年目になりました。登録ボランティアの顔ぶれはさまざま。現フライヤーはもちろん、かつて飛んでいたという方もいます。好きなスポーツのために何かしたいとお考えのあなた、ぜひボランティアになってください。連盟のことを知らないとか、初心者だからとか尻込みせずに、気軽にご登録ください。

JHF事務局で作業を手伝っていただく場合は、交通費を往復2,000円までお支払い。事務局外の場合はその都度お知らせします。

JHFウェブサイトから登録用紙をダウンロードして必要事項を入力／記入し、JHF事務局にメール（添付）やファクス、郵便などでお送りください。締切りはありません。いつでも大歓迎です。登録用紙に、どんなことが得意か、忘れずにお書きください。

現在進行中の事業で、映像編集などスカイスポーツをアピールするためのビジュアルな手段に精通した方を緊急募集中です。ご協力をお願いします。

■フライヤー会員登録は有効ですか（住所変更通知等のお願い）

あなたのフライヤー会員登録は有効ですか。登録が有効でないと、第三者損害賠償責任保険にも加入していない状態です。万一の事故の際、第三者への責任を果たすために、またご自身を経済的破綻から守るために、今すぐ会員登録証のご確認をお願いします。

◇住所を変更したらすぐお知らせを！

JHF事務局からお送りした登録更新案内が「転居先不明」で数多く戻ってきます。住所を変更された方は、お手数ですが下記のことをメール、FAX、郵便などでJHF事務局にお知らせください。更新案内が届かず登録切れに気付かないというケースが少なくありません。

□フライヤー会員No.
□お名前　□旧住所　□新住所
□連絡先電話番号　□メールアドレス

◇口座振替では残高にご注意を！

会費を口座振替でお支払いくださっている皆様、ご指定の口座から会費が引き落とされたかどうか、ご確認をお願いします。口座残高の不足で会費の振替ができないケースが何件か発生しています。

転居や残高不足のほか、郵便事故など、何かの不都合で手続きが完了しない場合も稀にあります。登録や更新をしたはずなのに会員登録証が届かないという場合、お手数ですがJHF事務局にご連絡ください。

■口座振替で無保険飛行を防止！

フライヤー会費の口座振替（自動振込）ができることをご存知ですか。口座振替なら、うっかり更新忘れによる無保険飛行を防止でき、郵便局やコンビニに払い込みに行かずに済みます。しかも年会費3,500円が3,300円に割引になり、振込手数料もかかりません。いいことずくめの口座振替への切り替えをぜひお考えください。

フライヤー会員登録更新案内に、口座振替案内と申込用紙を同封していますが、手続き上、登録有効期限ギリギリの申し込みでは間に合いません。まずは締切のご確認を。

なお、更新時期ではない方も予めお申し込みいただけます。ご希望の方はJHF事務局までご連絡ください。

■PG教本改訂版発行について

長い準備期間を経て、もうすぐパラグライディング教本改訂版ができあがりますと、前号でお知らせしましたが、さらに準備期間が延びています。発行予定、頒布価格や入手方法等はJHFウェブサイトでお知らせします。

■JHFの備品を貸し出します

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は、JHFウェブサイトから貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入／入力して、FAXかメールに添付して、JHF事務局までお申し込みください。依頼が重なった場合は申し込みの早かったところに優先して貸し出します。貸出・返却にかかる送料は、ご負担をお願いします。

◇自動体外除細動機（AED）

2007年度に１台導入。公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件：消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジメーター

キャノピー等のエアー漏れを計測する機械です。2007年度に１台導入。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出料5,000円、貸出期間２週間以内。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機（465.1875MHz）です。JHF会員を対象に、大会やイベントでの利用のために貸し出し。貸出料は1,000円／１台。申込条件：ご利用者のなかに「第三級陸上特殊無線技士」免許を持つ方がいること。詳しくはJHFウェブサイトのトップページ→［フライヤーサポートデスク］→［無線機貸出について］でもご案内しています。

訃報

4月27日、日本パラモーター協会の会長、松尾悦志氏が交通事故で亡くなりました。享年56歳。

松尾氏は日本のハンググライディング草創期に飛行を始め、ハング・パラ・動力付きパラグライダーのトップパイロットとして、競技に記録樹立に華々しい足跡をしるしました。1981年HG世界選手権、1995年PG世界選手権の日本開催に大きな功績を残し、その企画力とリーダーシップによりFAI賞を受賞。また、パラモーター（動力付きパラグライダー）協会の設立に尽力、今後ますますの活躍が期待されていました。ご逝去を悼み、心からご冥福をお祈りします。

お問合せ・ご連絡は――

（社）日本ハング・パラグライディング連盟
〒170-0002　東京都豊島区巣鴨３-39-４
東都ビル２階
TEL.03-5961-1388　FAX.03-5961-1389
info@jhf.hangpara.or.jp
http://jhf.hangpara.or.jp/

夏季休暇のお知らせ

2009年8月12日～17日は夏季休暇のため事務局業務を休みます。申請等はお早めにお願いします。

JHFレポート 190号
発行日：2009年６月５日
発　行：社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）
編　集：JHF事務局
印　刷：日本印刷株式会社